

1 調査名称：総合都市交通体系調査（相模原市）

2 調査主体：相模原市

3 調査圏域：相模原市南部地域

4 調査期間：平成30年度

5 調査概要：

本市は、鉄道が市域外縁部を通っていることから、鉄道駅と地域を結ぶ上で、路線バスが地域公共交通網の中で大きな役割を担っている。

しかしながら、南部地域においては、圏央道相模原愛川インターチェンジ開通に関連する交通量の増加により道路混雑が見られ、バスの定時性・速達性が確保されていない状況である。特に、南部地域の交通の要衝である相模大野駅周辺においては、送迎、荷捌き車両等による道路混雑やバスターミナルの容量不足などから円滑な交通に支障を来している。

このようなことから、円滑な公共交通の確保を図る必要があり、幹線快速バスシステム導入を図る上でも、必要最小限のハード整備と併せた自動車流入抑制などのソフト施策が重要となってくる。

本調査は、将来の実現性を踏まえ、社会実験等による検証により、円滑な公共交通の確保のための有効なTDM計画を策定するものであり、総合的に都市交通の円滑化を図る施策として、次期総合都市交通計画の検討に資するものである。

なお、今年度は、交通課題を解決するための交通円滑化施策メニューを検討し、交通社会実験計画の立案を実施した。

I 調査概要

1 調査名称：相模原市総合都市交通体系調査

2 報告書目次

1. 業務概要

1-1 業務目的

1-2 対象地区

1-3 業務内容

2. 社会実験の立案

2-1 交通施設・交通状況の整理

2-2 交通問題の整理

2-3 関連計画の整理

2-4 本地区の目指すべき姿

2-5 施設メニューの詳細検討

2-6 交通社会実験計画の検討・立案

3. BRT 導入時の交通円滑化に関する検討

3-1 不足するバス降車場の確保

3-2 BRT 乗降場の確保

4. 施策の効果検証

4-1 動態シミュレーションの検討ケースと与条件

4-2 動態シミュレーションによる検討結果

4-3 動態シミュレーションによる検討結果のまとめ

5. 相模大野駅北口周辺地区 TDM 推進委員会の検討経緯

3 調査体制

委員長：筑波大学大学院システム情報工学研究科リスク工学専攻 准教授 谷口 綾子
 副委員長：相模大野駅前自治会 会長 有泉 健一
 他15名

4 委員会名簿等：

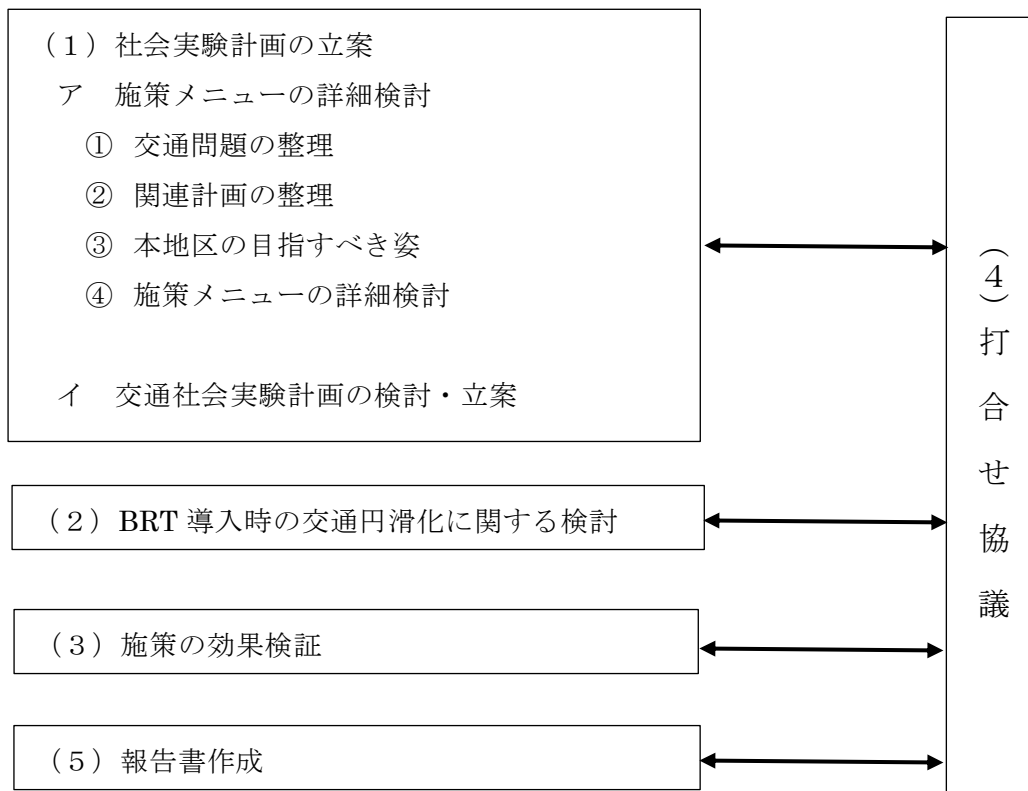
	所属	役職等	氏名
委員長	筑波大学大学院 システム情報工学研究科 リスク工学専攻	准教授	谷口 綾子
副委員長	相模大野駅前自治会	会長	有泉 健一
委員	神奈川中央交通株式会社 運輸計画部 計画課	課長	露木 輝久
委員	神奈川県タクシー協会 相模支部 相模原地区会	会長	大島 雄作
委員	神奈川県相模原南警察署 交通課	課長	塩澤 正憲
委員	学校法人 相模女子大学	事務局長	速水 俊裕
委員	大野南地区自治会連合会	会長	大木 恵
委員	相模大野駅周辺商店会連合会	会長	中田 克己
委員	相模大野北口商店会	会長	斉藤 誠
委員	公募市民		澁谷 悦子
委員	公募市民		三好 上次
委員	相模原市 都市建設局 道路部 南土木事務所	所長	青木 克司
委員	相模原市 都市建設局 まちづくり事業部 都市整備課	課長	佐藤 洋一
委員	相模原市 環境経済局 経済部 商業観光課	課長	齋藤 みゆき
委員	相模原市 南区役所 地域振興課	課長	馬場 浩司
委員	相模原市 南区役所 大野南まちづくりセンター	所長	渡辺 尚人
委員	相模原市 都市建設局 まちづくり計画部 交通政策課	課長	千葉 修司

II 調査成果

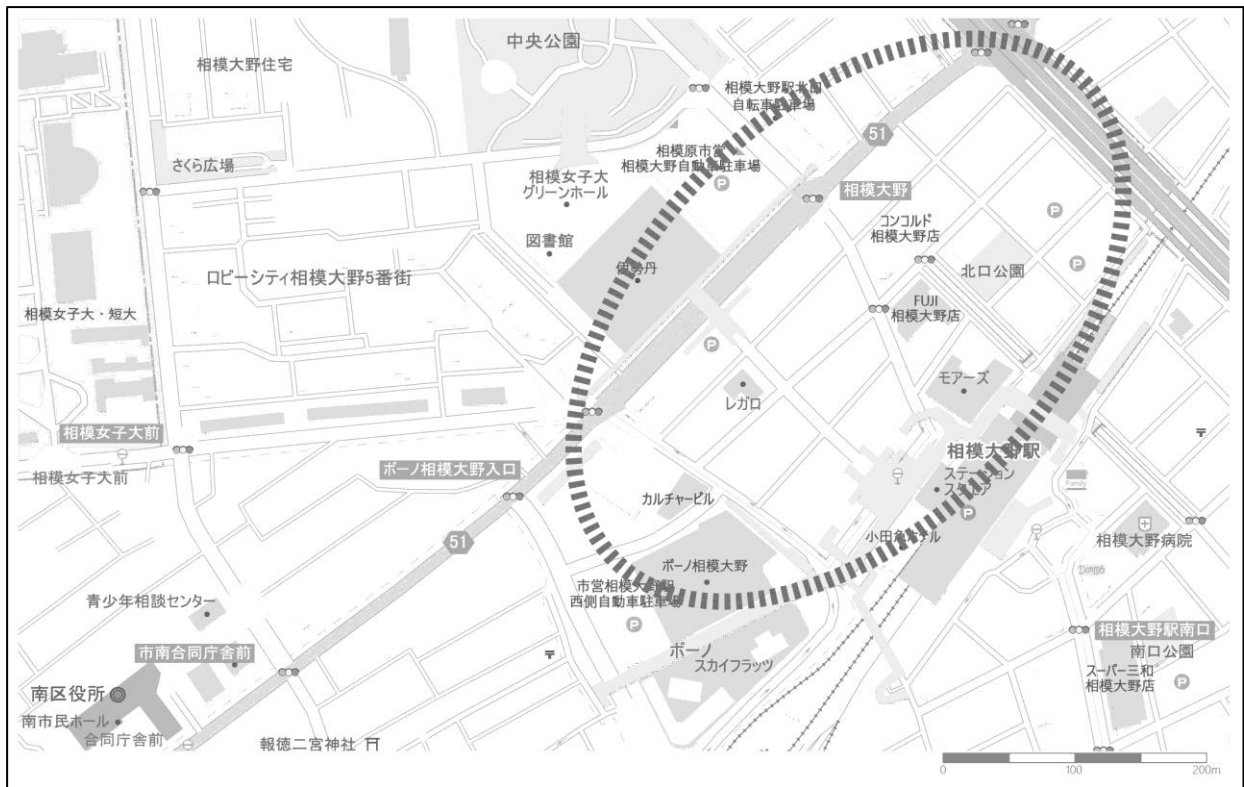
1 調査目的

本業務では、相模大野駅北口周辺地区におけるソフト施策を中心とする交通円滑化施策の推進計画策定を見据え、過年度に行った調査成果と推進委員会における意見等をもとに、交通円滑化施策と BRT 導入を前提とした相模大野駅北口駅前広場の運用を検討することを目的とした。

2 調査フロー



3 調査圏域図



4 調査成果

(1) 社会実験計画の立案

ア 施策メニューの詳細検討

過年度調査結果および推進委員会での意見を踏まえ、本地区に有効な施策の詳細を検討し、交通社会実験の対象とする施策および組合せ等を整理した。

① 交通問題の整理

過年度調査結果および推進委員会での意見、現地調査、既存データの分析等を踏まえ、本地区の交通問題を確認した。

② 関連計画の整理

本地区に関する上位・関連計画や、整備動向等を整理した。

- ・ 新しい交通システム導入基本計画（BRT）
- ・ 北口デッキ延伸事業
- ・ 伊勢丹相模原店の閉店

③ 本地区の目指すべき姿

関連計画や過年度の推進委員会での意見等を踏まえ、本地区が目指すべき姿を検討し、地区交通のあり方を整理した。

本地区における改善すべき課題と取組の方向性を整理した。

課題 1 歩行者・自転車の走行性・安全性の向上

商業地としての回遊性の向上、快適で安全な交通環境を確保するため、歩行者・自転車の通行環境を高め、自動車・歩行者・自転車各々の走行性、安全性を高めていくことが必要

課題 2 周辺交差点等での慢性的な道路混雑の解消

多様なニーズに対応し、市内外の交流を促進する魅力ある都市づくりの実現のため、駅周辺道路での道路混雑を解消し、円滑な交通環境を創出していくことが必要

課題 3 公共交通中心の交通体系の確立やバスの定時性・速達性の向上

高齢社会においても誰もがいきいきと活動できる交通環境の実現に向け、公共交通の担う役割を重視し、BRT 導入による更なるまちの活性化への期待を踏まえ、公共交通の利便性の向上を図ることが必要

また、この地区の交通に関する問題箇所を下図に整理した。



図 交通に関する問題箇所

④ 施策メニューの詳細検討

①～③の検討を踏まえ、本地区に有効な施策の詳細を検討し、交通社会実験の対象とする施策および組合せ等を整理した。

- ・ 交通課題に対応した交通円滑化施策メニュー
- ・ 効果的な施策の組合せ
- ・ 施策メニュー図の作成

想定する施策案

施策の分類

(1) 歩行者・自動車の走行性・安全性の向上に資する施策
<ul style="list-style-type: none">● 歩行者と自転車の動線分離● 歩道の一方通行化● 歩道部の障害物の除去● 自転車の利用マナーの徹底
(2) 慢性的な道路混雑の解消に資する施策
<ul style="list-style-type: none">● 信号現示の見直しやスクランブル化● 迂回経路の設定による混雑解消● 路上駐車等の取り締まりや監視の強化● 共同荷さばき場の設置● 駅前周辺の駐停車禁止
(3) 公共交通中心の交通体系の確立やバスの定時性・速達性の向上に資する施策
<ul style="list-style-type: none">● 駅前エリアへの自動車流入抑制● 取り締まり・監視の強化● 送迎車両対策（バス利用を促す啓発活動）

※上記の施策案にあわせて、取組に対する合意形成を熟成するため、

- ・ 交通社会実験
- ・ 事前の周知・PR等、モビリティ・マネジメントを実施する

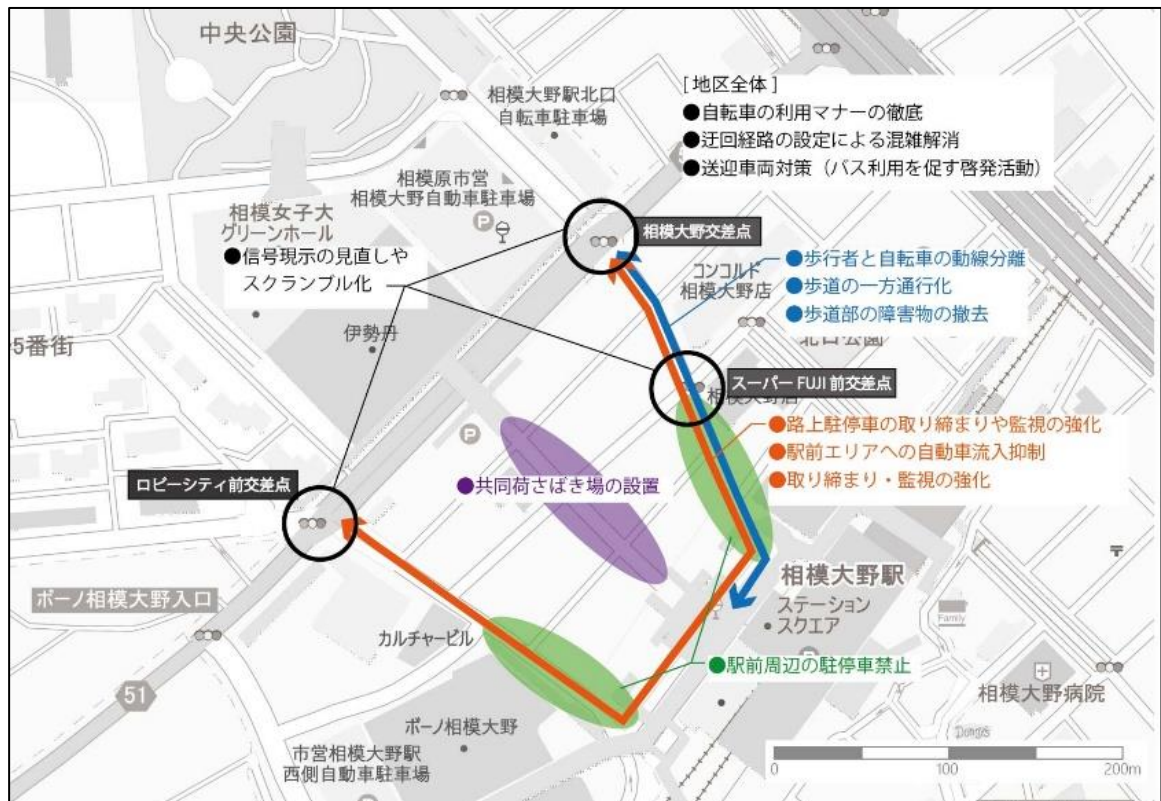


図 想定する施策案

イ 交通社会実験計画の検討・立案

交通社会実験の実施にあたり、広報、予算、スケジュール、効果検証、関係者との調整、その他必要となる項目を整理し、社会実験計画を検討・立案した。

なお、推進委員会の意見等を踏まえ、適時、必要な修正等を行った。

(2) BRT 導入時の交通円滑化に関する検討

BRT (連節バス) の導入を前提とした公共交通及び一般車円滑な交通環境を確保できるよう、駅前広場の運用変更、乗降場の再編等について検討した。

(3) 施策の効果検証

検討した施策の実施効果や周辺に与える影響を検証した。また、今後の関係者との合意形成に資する資料として活用するため、動態シミュレーションを作成した。